＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

区民目線で魅力発信！「すぎなみ学倶楽部」

毎月15日号のこのコラムで紹介している「すぎなみ学倶楽部」をご存じですか？

「すぎなみ学倶楽部」は、18年に開設され、杉並区にまつわる歴史やイベントからグルメ情報まで、幅広いジャンルを紹介する杉並区公式情報サイトで、その記事数は1100以上になります。記事の取材から執筆まで区民ライターが担当し、今回のコラムを書いている私もその1人です。

私は、区民ライター活動を始めるまで、「すぎなみ学倶楽部」を知りませんでした。元々杉並が好きで、取材や執筆にも興味があったので、すぎなみ地域大学の「区民ライター講座」の募集案内を見て挑戦しました。ライター活動で初めて取材した井荻の小さな店舗では、まだ不慣れで段取りもスムーズでなかった私ですが、快く取材に応じていただきました。後に、その店舗は上井草に移転し、店舗も取り扱う商品も拡大しています。取材を通して店主の思いや横顔を知ることができ、取材後は自分が町の変化に敏感になり、より地元に密着していることを感じます。

「すぎなみ学倶楽部」の読者としても、発見がありました。関心のあったロックバンド「怒髪天（どはつてん）」の増子直純さんをインターネットで検索していると、なんと「すぎなみ学倶楽部」で紹介されており驚きました。好きなアーティストが同じ町に住み、杉並に好印象を持っていることを知り、ますます親近感が増し、杉並がすてきな町に感じられます。

まだアクセスしたことがない方は、ぜひサイトをご覧ください。わが町に関する新発見に出会えることでしょう。また、「区民ライター」活動に興味を持たれた方は、5月開講のすぎなみ地域大学の「区民ライター講座」を受講して、一緒に活動してみませんか？　（ふ）

昨年の区民ライター講座の様子

すぎなみ学倶楽部
ホームページ

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

「杉並をこよなく愛する外国人」

杉並のお祭りやイベント、商店街などで外国人を見掛けることが増えてきたように感じませんか。今回は「杉並区が大好き！」という、杉並通の外国人2人を紹介します。

テレビ番組でもおなじみのアメリカ人、マシュー・チョジックさん（右上写真）は、ライター、俳優、大学講師などマルチに活躍しています。アメリカで幼少期に食べたそばとの出会いから始まり、その後、映画「Shall we ダンス？」や村上春樹の小説がきっかけで日本に興味を持ち、19年に来日。ショップやイベントで知り合った人々と気さくに語り合い、いつも刺激をもらう阿佐谷を、「宇宙一好きな街」と公言し、取材した記事の中で杉並で暮らす楽しさを熱く語っています。

オーサ・イェークストロムさんは、スウェーデン出身の漫画家。日本のアニメ「セーラームーン」に影響され、イラストレーター、漫画家となり、23年から杉並近隣で暮らしています。すぎなみ学倶楽部では、オーサさんと一緒に「杉並散歩」をして、神社でおみくじを引いたり、釣り堀で金魚釣りをしたりして、外国人目線で取材した記事を掲載しています。

パンダグッズがあふれるカフェでは、パンダのラテアートに興味津々など、外国人の目からみると新鮮で驚きの様子が描かれています。お散歩に適したこの季節、オーサさんのたどったコースを歩いてみてはいかがでしょうか。

杉並区には、地域密着型の店や個性的な飲食店をはじめ、散歩が楽しくなるスポットが多数あります。東京オリンピックを控え、国内外からの来訪者も増えるはず。そんな今後を見据えて「すぎなみ学倶楽部」で地元の情報を収集し、紹介してみませんか。　（育）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶すぎなみ学倶楽部ホームページ▶ゆかりの人々▶著名人に聞く　私と杉並

▶すぎなみ学倶楽部ホームページ▶文化・雑学▶杉並まちあるき

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

夏休みの自由研究に！善福寺川緑地でセミの羽化観察

新緑の初夏から季節は進み、あと1カ月ほどでもう夏休み。夏休みといえば、学校の宿題で自由研究のテーマ選びに毎年親子で頭を抱えるという方も多いのではないでしょうか。最近は便利な工作セットも市販されていますが、やはりオリジナルのテーマで取り組んだ観察や実験のレポートは、ひときわ目を引くもの。

区立小中学生の優秀な自由研究が集まる「杉並子どもサイエンス・グランプリ」では、毎年子どもならではのユニークな発想あふれる研究作品がすぎなみサイエンスフェスタで表彰されています。今年は、親子で身近な自然観察にチャレンジしてみませんか。

都立善福寺川緑地では、7月末～8月初旬に、セミの羽化を見ることができます。茶色い殻が背中から割れて、中からまだ青白い成虫がゆっくりと現れる様子はとても神秘的。生き物の不思議な力に目を奪われることでしょう。

羽化は午後6時～7時くらいに始まりますが、昼のうちに観察に適した場所を探しておくのがおすすめです。抜け殻がたくさん付いている木の近くや、地面にセミの幼虫が出てきた穴が開いている付近がベストスポットです。薄暗くなったら、虫よけ対策をして、懐中電灯と筆記用具を持って、親子で観察ポイントに行ってみましょう。羽化直前の幼虫は、目が黒く体がブヨッとしており、木の幹や葉っぱの上などにジッと止まっています。触ると羽化が失敗してしまうこともあるので、必ず静かに見守るようにしましょう。羽化の過程を写真やイラストで紹介したり、セミの種類による羽化の違いや、どんな場所で羽化しているかなどを調べたりすると、完成度の高い研究になりそうです。

「すぎなみ学倶楽部」では、セミの羽化の詳しい観察方法が学べるほか、レポート作りに便利なワークシートがダウンロードできます。ぜひ自由研究に役立ててください。（西）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶自然▶セミ

産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

商店街の熱気みなぎる大イベント！「阿佐谷七夕まつり」

昭和29年から始まり今年で65回目、恒例の「阿佐谷七夕まつり」が8月3日㈮～7日㈫に開催されます。かつて阿佐谷パールセンター商店街の店主たちが「暑い盛りの8月にも商店街に来てくれるお客さんを増やしたい」という思いで始めたイベントが、今では5日間で延べ約85万人もの方が訪れる杉並の夏の風物詩となりました。平成24年からは阿佐ケ谷駅周辺の商店街が合同で「七夕まつり連合会」を立ち上げ、それぞれの商店街が七夕関連イベントを催す、街を挙げての大規模な祭りになっています。

一番の見どころは、他の地域の七夕まつりでは珍しい、アーケードを飾る巨大な手作りの張りぼて。初回から続く伝統の張りぼては、商店街の方々が仕事を終えてからコツコツ制作したもの、区立小中学校の子どもたちが地域活動の一環で作ったもの、公募で区民から寄せられたものなど、どれも個性あふれる温かみのある作品ぞろい。また、商店街の多くの店舗が、店先に模擬店を出して盛り上げているのも「阿佐谷七夕まつり」の特徴です。酒屋さんがスペイン料理の模擬店を出すなど、店主の工夫や意気込みが感じられます。他にもすずらん通り商店街には子どもが楽しめる屋台や「子どもお化け屋敷」が登場し、川端通り商店街の釣り堀には光る金魚の張りぼてが水面に浮かぶなど、来場者を喜ばせています。

すぎなみ学倶楽部では、「まち別検索」機能を使ってエリア別に店や名所などを調べることができます。阿佐ケ谷エリアを検索して、「阿佐谷七夕まつり」の立ち寄りスポット探しにお役立てください。（舘）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶まち別検索

産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

家族や友達と楽しめる区立施設

お盆を過ぎると、学校の夏休みも後半に入りますね。残りの休みを利用して、家族や友達と一緒に身近な区立の施設を訪ねてみませんか？

江戸時代の長屋門が目印の「杉並区立郷土博物館」（大宮1-20-8）は、杉並の歴史を学べる施設です。土・日曜日の午後には江戸時代の古民家のいろりに火が入り、お茶を飲んだり、火吹きや石臼の体験ができます。また秋には十五夜の飾りなど、四季折々の「年中行事」を見ることができます。南北バスすぎ丸とＪＲ中央線のペーパークラフトを販売しているので、組み立てにチャレンジするのも良いですね。

9月9日㈰までは「昆虫展Inすぎなみ2018」が開催中です。会期中、毎週金曜日の午後2時～4時には生きたヘラクレスオオカブトに触ることができます。また8月25日㈯には午前10時から博物館隣の「観察の森」で昆虫観察を行います。中学生以下は無料で入館できます。善福寺川緑地公園の緑を楽しみながら訪ねてみてはいかがでしょうか。

また、荻窪にある「杉並会館」（上荻3-29-5）は、昭和42年に結婚式場として開館しました。設計者は東京芸術劇場などの設計で知られる芦原義信（あしはらよしのぶ）氏。1階のロビーを飾る、陶芸作家・會田雄亮（あいだゆうすけ）氏の作品である重厚な陶壁や、優雅なシャンデリアなど、建物の内装も一見の価値があります。3・4階には、日本のアニメ全般を紹介している「杉並アニメーションミュージアム」もあります。外国人来館者も多い観光スポットで、アニメの歴史を学べるほか、懐かしのアニメの視聴やアフレコ体験などを楽しめます。11月18日㈰までは、人気アニメ「アイカツフレンズ！」の企画展を開催。入館無料です。

「すぎなみ学倶楽部」では、区内のさまざまな施設や、気になる建築物などを紹介しています。見どころはもちろん、施設の歴史まで詳しく解説しているので、お出掛け先の下調べにぜひご活用ください。（育）

▲郷土博物館常設展示室

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶文化・雑学▶杉並のさまざまな施設

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

歴史資料集コーナーの紹介

すぎなみ学倶楽部では、読者から寄せられた情報や資料などを元に記事を作成することがあります。

29年8月15日号で「中島飛行機」や「都電杉並線」に関する資料を募集したところ、中島飛行機の元社員のご家族から、大切に保管していたさまざまな思い出の品を提供いただきました。その中に中島飛行機製エンジンを搭載し、昭和12（1937）年に東京とロンドン間の飛行で日本初の国際記録を樹立した「神風」号の置物があります。朝日新聞社主催の飛行イベントの記念品で、当時、中島飛行機に勤めていた設計技師が破損部分を修理した痕が残る貴重な品です。

また、区内の戦争証言を集めている時に、大正から昭和初期の高井戸に暮らしていた農の哲人「江渡狄嶺（えどてきれい）」の親族と偶然にも知り合い、狄嶺が残した膨大な遺品の存在を知る機会を得ました。郷土博物館と区民ライターが協働をして、高井戸の「狄嶺文庫」から長野県茅野市の書庫に移されていた品々を調査。狄嶺の肖像写真が貼られた、現在の手帳型になる前の珍しい形のパスポートも見つかり、海外旅行で収集したホテルのパンフレットの中には、そのホテルにも残っていない希少なものもありました。

すぎなみ学倶楽部では、こうした資料の一部をデジタル画像にし、「歴史資料集」コーナーで公開しています。「神風」号の置物や狄嶺のパスポートなどを、いろいろな角度から撮影して掲載しています。博物館で見ているように眺めることができますのでご覧ください。　（北）

▲「神風」号の置物

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶歴史▶歴史資料集

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

石井桃子さん、井伏鱒二さんがつづった、昭和の荻窪

もうすぐ読書週間が始まります。さわやかな秋の一日、図書館でゆっくり本を選ぶのも楽しいですね。

荻窪には、えりすぐりの絵本が並ぶ「かつら文庫」があります。ここは、児童書「ノンちゃん雲に乗る」の作者で「クマのプーさん」などの翻訳者としても活躍した石井桃子さんが、昭和33年に自宅に開設した小さな図書室です。石井桃子さんは、昭和14年からこの場所に住み、日々の暮らしをエッセーにまとめました。エッセー集「家と庭と犬とねこ」を読むと、戦時中に庭の池や石臼の中でメダカや金魚を大切に飼い続けていたエピソードや、雨が降ると泥んこになる昭和20年代の荻窪の道路事情など、当時の暮らしぶりが分かります。

石井桃子さんのエッセーには、荻窪在住の直木賞作家・井伏鱒二さんが石井家を訪れる様子も書かれています。井伏鱒二さんは昭和2年から荻窪に住み、地元や阿佐谷界隈（かいわい）の作家仲間をはじめ、町の人々と親しく交流していました。昭和57年には、長年の荻窪暮らしをつづったエッセー「荻窪風土記」を出版 。善福寺川で太宰治さんと一緒に釣りをした話など、多くの文学者たちが往来した昭和時代の荻窪の情景が生き生きと書かれています。「荻窪風土記」を読んだ後に、当時の暮らしを想像しながら、昭和の文士たちが歩いた街並みをたどってみるのもいいですね。

すぎなみ学倶楽部では、杉並にゆかりのある文学者たちが書いたエッセーや小説、杉並を舞台にした著書を多数紹介しています。自分の住む町にゆかりのある本を探してみませんか 。（な）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶文化・雑学▶読書のススメ－杉並ゆかりの本

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

都電杉並線の思い出～杉並にチンチン電車が走っていた頃

大正末期から昭和半ばまで、杉並区内に路面電車が走っていたことをご存じですか。大正10年に、現・西武鉄道の西武軌道線として、荻窪―淀橋（新宿区）間が開通。のちに東京都に買収され、「都電杉並線」として新宿駅を起点に、終点の荻窪駅まで青梅街道を7.3km運行していました。昭和38年に営団地下鉄（現・東京メトロ）丸ノ内線の開通により役目を終えるまで区民の貴重な足として親しまれていました。

「都電杉並線」を、電車が鳴らす鐘の音から「チンチン電車」の愛称で呼んでいた人も多かったでしょう。区民の皆さんからもすぎなみ学倶楽部に多くの投稿をいただいています。

当時、天沼停留所の近くに住んでいた勝崎さん。「杉並第七小学校の課外授業で、チンチン電車を利用して蚕糸試験場（現・蚕糸の森公園）まで行き、蚕を小学校まで運んで、繭になるまで育てたこともありました」と、昔を振り返ります。同じく当時小学生だった久保田さんは、昭和31年、若ノ花（のちの横綱・初代若乃花）の優勝パレードを見るために「都電杉並線」の綱屋横丁停留所まで出掛けたそうです。「新宿方面から若ノ花を乗せたオープンカーが来ました。若ノ花は、まわしだけで上半身は裸だった。通りすぎるときにたたいた若ノ花の肩が、すごく硬かったことを今でも覚えています。」と、投稿いただきました。

すぎなみ学倶楽部では、この他にも寄せられた「都電杉並線」の思い出を紹介しています。歴史資料コーナーには、貴重な資料の写真も掲載しています。秋の夜長に、昭和の杉並に思いをはせてみませんか。（舘）

写真提供：郷土博物館

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶歴史▶記録に残したい歴史▶【区民投稿】都電杉並線の思い出

産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

ハーモニーが広がる音楽文化の拠点～杉並公会堂

今年も残すところあと2週間余りとなりました。皆さんにとって「平成30年」はどんな年でしたか。年末の慌ただしさを少し忘れて、ゆったりとした時間を過ごせる区の文化施設を紹介します。

荻窪に、昭和32年に設立された「杉並公会堂」（上荻1-23-15）があります。建て替える前の施設は、音響の良さと客席数の多さから「東洋一の音楽の殿堂」と言われ、クラシックのコンサートやコンクールなど数々の音楽シーンの場として活躍してきました。

平成18年にリニューアルした現在の建物のメインホールは、かつての伝統を引き継ぐ国内有数の音響効果を備え、わが国を代表するオーケストラ、日本フィルハーモニー交響楽団が拠点としているほか、多くのジャンルのコンサートやシンポジウムが催されています。また、地下練習場は杉並児童合唱団をはじめ、プロからアマチュアまで多くの団体に幅広く利用されています。加えて、建物の外観デザインはガラス張りでとても美しく、22年に公共建築賞優秀賞を受賞しています。年末年始も、親子向けのクリスマスコンサートやオーケストラの定期演奏会、リサイタルなどさまざまな公演が行われます。当日券で観賞できる公演もあるので、スケジュールをチェックしてみてはいかがでしょうか。正面玄関前の大きなアケボノスギにはイルミネーションがともされ、冬の夜空に温かな光を添えています。

すぎなみ学倶楽部では、杉並公会堂の歴史、建物の魅力などを紹介しています。

この他にも、区のいろいろな文化施設を紹介していますので、冬休みのお出掛け先の情報収集にご活用ください。（育）

写真提供：杉並公会堂

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶歴史▶記録に残したい歴史▶区の文化のシンボル－杉並公会堂

▶文化・雑学▶杉並の景観を彩る建築物▶杉並公会堂

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

「テレビでも活躍！言語学者・金田一秀穂さん」

クイズ番組のユニークな回答や、教養番組での分かりやすい解説が人気の金田一秀穂さん。祖父の京助さん、父の春彦さんも言語学者という、学者一家に育ちました。現在は杏林大学外国語学部の教授ですが、始めから学者を目指していたわけではなかったとのこと。26歳のとき、旅先の韓国で親切なおじいさんから日本語で話し掛けられたのがきっかけで、言葉の奥深さを意識したそうです。それから日本語の研究を始め、中国やアメリカの大学で教壇に立つようになりました。

マスメディアへの登場は49歳から。父親に「大学教授オンリーではつまらないのではないか」と言われて以来、書籍やテレビを介して日本語の面白さを伝えています。秀穂さんの「日本人が母語である日本語に魅力を感じるのは当たり前のこと。そして、世界の全ての人が自分の母語に愛着を感じることができれば、それは本当に幸せなことだと思います」というメッセージは、言葉に対する深い愛情が感じられます。

杉並との縁は、岩手県出身の京助さんが杉並に居を構えてからで、秀穂さんは生まれも育ちも杉並です。そんな秀穂さんが親しみを感じている街は西荻窪と阿佐谷。「私のプライベートタイムは、朝風呂、料理、散歩と買い物、昼寝が中心で、阿佐谷はそれを満喫するのにまさにうってつけの街ですね」と笑顔で語ります。

すぎなみ学倶楽部では、元ボクシングチャンピオンの具志堅用高さん、世界的ジャズピアニストの山下洋輔さんなどの著名人から、知られざる偉人まで、杉並にゆかりがある方々を約140名紹介しています。さまざまな人物と杉並との関わりを通して、地元の魅力を再発見してみませんか。（舘）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶すぎなみ学倶楽部ホームページ▶ゆかりの人々▶著名人に聞く私と杉並▶金田一秀穂さん

問産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

下高井戸でスケートを楽しむ人々

右の写真は大正時代に下高井戸で撮影された風景です。三つぞろいのスーツにハンチング帽、はかま姿で手にはステッキと、なかなかおしゃれな紳士たち。彼らはなんとアイススケートを楽しんでいるのです。

今から約100年も前の大正6年、下高井戸に「吉田園」という屋外スケート場が誕生しました。創業者の孫である吉田哲夫さんによると、その頃の下高井戸は現在より気温が低く、冬には霜柱ができるほどで、「吉田園」のあたりは杉並木で日光が遮られた北斜面にあり、スケート場の以前は製氷場だったといいます。

また、「吉田園」は昭和初期になると夏場はプールになり、地元の住民だけでなく、大正2年に開通した京王線で多くの人が訪れたそうです。「この下高井戸に当時の流行の先取りみたいな所を造るって、じいさん張り切っちゃったみたいで（笑）、音楽隊とかつくってね。だから当時、わざわざ水道局に掛け合って玉川上水に橋を架ける許可までとって、吉田園までの道に私費で『小菊橋』を架けたんです」と哲夫さん。残念ながら「吉田園」は閉館になりましたが、「小菊橋」は平成7年に下高井戸2丁目に復元され、当時の面影を今に伝えています。

すぎなみ学倶楽部では、区民の証言や残された資料を基に、探求心をくすぐる杉並の歴史を記録しています。記事や写真を見ながら、今の様子とは違う田畑が残る昔のほのぼのとした杉並の景色を思い描いてみませんか。（育）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶歴史▶記録に残したい歴史▶謎の吉田園杉並のスケート場

産業振興センター観光係☎5347-9184

＼毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。／

すぎなみ学倶楽部

悲劇のパイロットから航空学校の校長に～飯沼金太郎

芝生ではしゃぐ子どもたちや、ジョギングやウオーキングに汗を流す人たちでにぎわう桃井原っぱ公園。ここはかつて、世界に誇る航空エンジンを設計・製造した中島飛行機東京工場でしたが、その青梅街道を挟んだ南側には、現在の日本航空業界の発展の礎となる飯沼金太郎が設立した航空機関士や飛行士を養成する学校がありました。

飯沼は20歳の時に飛行機操縦修業証書を取得し、やがて中島飛行機付属の飛行学校の助教官になります。そこで社長の中島知久平と知り合い、「オヤジ」と呼ぶほどに親交を深めました。

大正9年、東京・大阪間無着陸周回飛行競技に出場した飯沼に悲劇が襲います。機体が山林に墜落し大破、奇跡的に命は助かりましたが左足が不自由になり、航空界から退くことになったのです。その後、趣味の油絵に慰みを見いだす日々を送る中、仲間の飛行士たちの相次ぐ事故死を聞き、「志半ばで倒れた彼らの遺志を継がなければならない。それは、後進のパイロットを育てることではないか」と一念発起。昭和8年4月、飛行機の製作・修理組み立てなどで得た資金や、中島知久平からの支援をもとに、「亜細亜航空学校」と「亜細亜航空機関学校」を設立しました。そして、女性飛行士を含む700名以上ともいわれる卒業生を輩出し、日本航空業界の人材育成に貢献したのです。

すぎなみ学倶楽部では、飯沼金太郎をはじめ、あまり歴史の表舞台に立つことは無かった杉並ゆかりの偉人にもスポットを当て紹介しています。ドラマチックな彼らの人生記をぜひ、ご覧ください。（小）

すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ゆかりの人々▶知られざる偉人▶飯沼金太郎さん

問産業振興センター観光係☎5347-9184

お花見シーズンは、杉並区で桜を楽しもう！

すぎなみ学倶楽部より、お花見スポットを紹介します。
～「杉並を代表する三本の川と桜」

区内を東西に流れる善福寺川、妙正寺川、神田川。これらの川沿いの桜並木は、どれも毎年多くの区民に親しまれているお花見の名所です。

善福寺川
Zenpukujigawa River

善福寺川は、五日市街道沿いの尾崎橋付近や都立和田堀公園周辺を中心に桜並木が続き、近年では外国人観光客や東京都外からの花見客も訪れています。JR阿佐ケ谷駅–京王井の頭線浜田山駅間を走る南北バス「すぎ丸・けやき路線」に乗って「児童交通公園入口」で下車すれば、桜が咲く遊歩道まで徒歩3分ほどで着けます。

妙正寺川
Myoushoujigawa River

妙正寺川の源流は、妙正寺公園（清水3-21-21）にある妙正寺池です。池の近くで咲き誇るソメイヨシノの真下に据えられたベンチが、園内の桜のベストスポット。満開の時期に腰掛ければ、花びらのシャワーを浴びているようです。妙正寺川沿いに植えられた枝垂（しだれ）桜も成長し、年々見事な花を咲かせるようになりました。昨秋の台風の影響で数本の木に被害が出ましたが、公園のある上流は例年通りの美しさが期待できそうです。特に、枝垂桜とソメイヨシノの共演が見られるスポットは人気です。

神田川
Kandagawa River

区の南部を流れる神田川沿いも、高井戸駅周辺や塚山公園（下高井戸5-23-12）周辺を中心に、桜スポットが点在しています。神田川遊歩道には約300本のソメイヨシノが植えられており、花見客の肩先にまで桜の枝が迫る場所もあるので、花の様子を間近に撮影したいときにおすすめです。

川ごとに違った風景がある杉並の桜。満開の時期の散策はもちろんのこと、シーズンの終わり頃に川面に散った花筏（いかだ）を眺めながら散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。（区民ライター　舘・小）

Check!

このほかにも、区内の身近な公園や風情ある寺社などで、
さまざまな種類の桜を楽しむことができます。

すぎなみ学倶楽部 特集＞お花見ポイント

HP https://www.suginamigaku.org/corner/feature/hanami/